

新 旧 対 照 表

【 森林整備保全事業 I C T活用工事（土工1,000m3未満）積算要領 】

改 正 後	現 行	備 考																
<div>別紙 1－⑤</div> <div>森林整備保全事業 I C T活用工事（土工1,000m3未満）積算要領</div> <div>1. 適用範囲 本資料は、以下に示す土工量1,000m3未満の I C Tによる土工（以下、「土工（ I C T）（1,000 m3未満）」という。）に適用する。 なお、1箇所当たりの施工土量が100m3程度までの掘削等（適用土質は、土砂（砂質土及び砂、粘性土、礫質土）とする。）は、「森林整備保全事業 I C T活用工事（小規模土工）積算要領」によるものとし、出来形管理を行わない作業土工（床掘）については、「森林整備保全事業 I C T活用工事（作業土工（床掘）積算要領）」によるものとする。</div> <div>2. 機械経費 土工（ I C T）（1,000m3未満）の積算で使用する I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。ただし、山地治山土工における I C T施工には適用せず、見積りを活用して積算することとする。</div> <div>2－1 機械経費</div> <div>I C T建設機械の機械経費に係る損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、「森林整備保全事業設計積算要領等の細部取り扱い」により算定するものとする。</div> <div>①土工 1,000m3未満（ I C T）</div> <table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>【削除】バックホウ（クローラ型）</td><td>後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)、山積0.45m3(平積0.35m3)</td><td>損料にて計上</td><td>I C T 建設機械経費 加算額は別途計上</td></tr></table> <div>2－2 I C T建設機械経費加算額</div> <div>2－2－1 損料加算額 I C T建設機械経費損料加算額は、建設機械に取り付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1機械経費のうち損料にて計上する I C T建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。</div> <div>(1) 【 省 略 】</div> <div>2－3 システム初期費</div> <div>【 削 除 】</div> <div>【 削 除 】</div> <div>I C T建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、I</div>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	【削除】バックホウ（クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)、山積0.45m3(平積0.35m3)	損料にて計上	I C T 建設機械経費 加算額は別途計上	<div>別紙 1－⑤</div> <div>森林整備保全事業 I C T活用工事（土工1,000m3未満）積算要領</div> <div>1. 適用範囲 本資料は、以下に示す土工量1,000m3未満の I C Tによる土工（以下、土工（ I C T）（1,000 m3未満【追記】）に適用する。 【追記】</div> <div>2. 機械経費</div> <div>【追記】</div> <div>2－1 機械経費 土工（ I C T）（1,000m3未満）の積算で使用する I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、「森林整備保全事業設計積算要領等の細部取り扱い」により算定するものとする。</div> <div>①土工 1,000m3未満（ I C T）</div> <table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>I C Tバックホウ（クローラ型）</td><td>後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)、山積0.45m3(平積0.35m3)</td><td>損料にて計上</td><td>I C T 建設機械経費 加算額は別途計上</td></tr></table> <div>2－2 I C T建設機械経費加算額</div> <div>2－2－1 損料加算額 I C T建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1機械経費のうち損料にて計上する I C T建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。</div> <div>(1) 【 省 略 】</div> <div>2－3 その他 I C T建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。</div> <div>2－3－1 保守点検 I C T建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。</div> <div>(1) 土工 1,000m3未満（ I C T）</div> <div>保守点検費 ＝ 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m2)}}{\text{作業日当り標準作業量(m2/日)}}$</div> <div>(注) 作業日当り標準作業量は「施工パッケージ型積算基準 第11章 その他② 作業日当たり標準作業量」の I C T標準作業量による。 (注) 施工数量は、I C T施工の数量とする。</div> <div>2－3－2 システム初期費 I C T施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期</div>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	I C Tバックホウ（クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)、山積0.45m3(平積0.35m3)	損料にて計上	I C T 建設機械経費 加算額は別途計上	
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考															
【削除】バックホウ（クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)、山積0.45m3(平積0.35m3)	損料にて計上	I C T 建設機械経費 加算額は別途計上															
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考															
I C Tバックホウ（クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)、山積0.45m3(平積0.35m3)	損料にて計上	I C T 建設機械経費 加算額は別途計上															

新 旧 対 照 表

【 森林整備保全事業 I C T 活用工事（土工1,000m3未満）積算要領 】

改 正 後	現 行	備 考
<p>C T建設機械精度確認等、 I C T建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用など、貸出しに要する全ての費用については、 I C T建設機械経費損料加算額に含んでいる。</p> <p>3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量及び3次元設計データの作成費用を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、見積り等を活用し必要額を適正に積み上げるものとする。また、当該費用は間接費を含む額とし、現場管理費や一般管理費等の対象額に含めないこととする。そのほか、下記の費用に関しては、間接工事費に含まれることから別途計上の対象とならない。</p> <ul style="list-style-type: none">・3次元起工測量 基準点等の設置（従来の起工測量に含まれるもの）・3次元設計データ作成 設計図書の照査に関する作業 その他協議図面作成に関する作業 完成図書作成に関する作業 <p>費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積りの提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</p> <p>また、前工事及び設計段階での3次元設計データを活用した場合、発注者が貸与する3次元設計データを活用した場合は、費用計上しないものとする。</p> <p>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。</p> <p>4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点／㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、3次元データ納品等を行った場合における経費は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、見積り等を活用し必要額を適正に積み上げるものとする。</p> <p>なお、上記経費の対象となる出来形管理は、以下の①から⑤とし、それ以外の森林整備保全事業 I C T 活用工事（土工1,000m3未満）実施要領に示された出来形管理の経費は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none">①空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理②地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理③無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理④地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理⑤上記1）～4）に類似するその他の3次元計測技術を用いた出来形管理 <p>【 削 除 】</p>	<p>費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 土工 1,000m3未満（ I C T ） 対象建設機械：バックホウ 費用： I C T 建設機械経費損料加算額に含む</p> <p>3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成【追記】を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、【追記】必要額を適正に積み上げるものとする。【追記】</p> <p>4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受発注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適正に積み上げるものとする。</p> <p>5. 積算方法 受注者からの提案・協議により I C T 施工を実施した場合は、[I C T 建設機械使用割合100%]」を用いて積算するものとする。</p>	

新 旧 対 照 表

【 森林整備保全事業 I C T活用工事（土工1,000m3未満）積算要領 】

改 正 後	現 行	備 考
<p>【参考】</p> <p>1. 施工歩掛</p> <p>（１） 【 省 略 】</p> <p>（２）土質区分</p> <p>日当たり施工量における土質は、次表のとおり区分する。</p> <p>表1.1 土質区分</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>1－1 オープンカット（バックホウ掘削）</p> <p>（１）日当たり施工量</p> <p>オープンカット（バックホウ掘削）の日当たり施工量は、次表を標準とする。</p> <p>表1.2 オープンカット（バックホウ掘削）日当たり施工量（1日当たり）</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>1－2 片切掘削</p> <p>（１）日当たり施工量</p> <p>片切掘削の日当たり施工量は、次表を標準とする。</p> <p>表1.3 片切掘削（人力併用機械掘削）日当たり施工量（1日当たり）</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>（注） 【 省 略 】</p> <p>（２）人力掘削歩掛</p> <p>片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛は、次表を標準とする。</p> <p>表1.4 片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛（100m3 当たり）</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>（注） 1. 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。 なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。 2. 上表にクレーン作業は含まない。</p> <p>1－3 法面整形工（1,000m3未満）</p> <p>（１）日当たり施工量</p> <p>法面整形工（I C T施工）における日当たり施工量は、次表を標準とする。</p> <p>表1.5 日当たり施工量（m2/日）</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>（２）施工歩掛</p> <p>1）盛土法面整形工</p>	<p>【参考】</p> <p>1. 施工歩掛</p> <p>（１） 【 省 略 】</p> <p>（２）土質区分</p> <p>日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。</p> <p>表1.1 土質区分</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>1－1 オープンカット（バックホウ掘削）</p> <p>（１）日当り施工量</p> <p>オープンカット（バックホウ掘削）の日当り施工量は、次表を標準とする。</p> <p>表1.2 オープンカット（バックホウ掘削）日当り施工量（1日当り）</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>1－2 片切掘削</p> <p>（１）日当り施工量</p> <p>片切掘削の日当り施工量は、次表を標準とする。</p> <p>表1.3 片切掘削（人力併用機械掘削）日当り施工量（1日当り）</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>（注） 【 省 略 】</p> <p>（２）人力掘削歩掛</p> <p>片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛は、次表を標準とする。</p> <p>表1.4 片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛（100m3 当り）</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>（注） 1. 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。 なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。 【 新 規 】</p> <p>1－3 法面整形工（1,000m3未満）</p> <p>（１）日当たり施工量</p> <p>法面整形工（I C T施工）における日当り施工量は、次表を標準とする。</p> <p>表1.5 日当り施工量（m2/日）</p> <p>【 表 省 略 】</p> <p>（２）施工歩掛</p> <p>1）盛土法面整形工</p>	

新 旧 対 照 表

【 森林整備保全事業 I C T 活用工事（土工1,000m3未満）積算要領 】

改 正 後	現 行	備 考
<p>①削取り整形 本歩掛は、築立（土羽）部を本体と同一材料（土）で同時に施工し、機械で法面部を削り取りながら整形する場合に適用する。</p> <p>表1.6 削り取り整形歩掛 (100m2当たり)</p> <p>【 表 省 略 】 (注) 【 省 略 】</p> <p>②築立（土羽）整形 本歩掛は、土羽土部分の敷き均し・締固め及び整形を機械で行う場合に適用する。</p> <p>表1.7 築立（土羽）整形歩掛 (100m2当たり)</p> <p>【 表 省 略 】 (注) 【 省 略 】</p> <p>2）切土法面整形工 ①切土法面整形 本歩掛は、機械による切土法面整形に適用する。</p> <p>表1.8 切土法面整形歩掛 (100m2当たり)</p> <p>【 表 省 略 】 (注) 【 省 略 】</p> <p>2．単価表 （1）オープンカット（バックホウ掘削）100m3当たり単価表 【 表 省 略 】 (注) D：日当たり施工量</p> <p>（2）片切掘削（人力併用機械掘削） 100m3 当たり単価表 【 表 省 略 】 (注) D：日当たり施工量</p> <p>（3）削取り又は築立（土羽）及び切土整形 100m2当たり単価表 【 表 省 略 】</p>	<p>①削取り整形 本歩掛は、築立（土羽）部を本体と同一材料（土）で同時に施工し、機械で法面部を削り取りながら整形する場合に適用する。</p> <p>表1.6 削り取り整形歩掛 (100m2当り)</p> <p>【 表 省 略 】 (注) 【 省 略 】</p> <p>②築立（土羽）整形 本歩掛は、土羽土部分の敷き均し・締固め及び整形を機械で行う場合に適用する。</p> <p>表1.7 築立（土羽）整形歩掛 (100m2当り)</p> <p>【 表 省 略 】 (注) 【 省 略 】</p> <p>2）切土法面整形工 ①切土法面整形 本歩掛は、機械による切土法面整形に適用する。</p> <p>表1.8 切土法面整形歩掛 (100m2当り)</p> <p>【 表 省 略 】 (注) 【 省 略 】</p> <p>2．単価表 （1）オープンカット（バックホウ掘削）100m3当り単価表 【 表 省 略 】 (注) D：日当り施工量</p> <p>（2）片切掘削（人力併用機械掘削） 100m3 当り単価表 【 表 省 略 】 (注) D：日当り施工量</p> <p>（3）削取り又は築立（土羽）及び切土整形 100m2当り単価表 【 表 省 略 】</p>	

新 旧 対 照 表

【 森林整備保全事業 I C T 活用工事（土工1,000m3未満）積算要領 】

改 正 後				現 行				備 考
(4) 機械運転単価表				(4) 機械運転単価表				
機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項	
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) (オ ー プ ン カ ッ ト)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3 (平積0.35m3)	2. 単価表 (5)	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →44 機械損料数量→1.33	バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) (オ ー プ ン カ ッ ト)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3 (平積0.35m3)	2. 単価表 (5)	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →48 機械損料数量→1.33	
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) (片 切 掘 削)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3 (平積0.35m3)	2. 単価表 (5)	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →44 機械損料数量→1.33	バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) (片 切 掘 削)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3 (平積0.35m3)	2. 単価表 (5)	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →48 機械損料数量→1.33	
バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) (法 面 整 形)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3 (平積0.35m3)	2. 単価表 (5)	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →44 機械損料数量→1.33	バ ッ ク ホ ウ (ク ロ ー ラ 型) (法 面 整 形)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3 (平積0.35m3)	2. 単価表 (5)	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →48 機械損料数量→1.33	
(5) 【 省 略 】				(5) 【 省 略 】				